



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実かどうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるかどうか

1818 例会(平成 21 年 5 月 26 日)

会長挨拶

網中 吉郎

今日はクラブ創立 37 周年記念例会であります。例会終了後は恒例となっております懇親会がありますので、大いに親睦を深め創立記念日をお祝いしたいと思います。

さて、今日は水戸黄門こと徳川光圀のことをお話ししたいと思います。慶長 14 年、家康の十一男・徳川頼房(ヨリサ)が常陸国下妻から水戸に移された時から水戸徳川家が始まります。頼房の性格を表す子供のころのエピソードがいくつか伝わっていますが、極めつけは、家康が九男義直(尾張藩祖)十男頼宣(紀伊藩祖)頼房の 3 人の息子を伴って駿府城の天守最上階に上った時のことです。その時家康は戯れに、「ここから飛び降りる勇気のある者はいるか」と 3 人に尋ねました。みな黙ってしまいましたが、頼房は「もし私に天下を頂けるならば、飛び降ります」と言いました。家康は笑って「たとえ天下を貰えたとしても、死んでしまったら元も子もないではないか」と言うと、頼房は「たとえ死んでも天下を取った者の名は末代まで残ります」と答え、さすがに家康も言葉失ったといひます。

この頼房の跡を取って 2 代目藩主となったのが、三男・水戸黄門で有名な徳川光圀(幼名・千代松)です。光圀にも子供のころのエピソードが残っています。7 歳の頃、江戸藩邸の近くの馬場に罪人の首が晒されていた時、頼房は千代松の勇気を試そうと思い、夜も更けてから「首を持ってこい」と命じました。千代松は少しもためらうことなく、闇夜の中、一人で出かけ、手探りで首を探り当て、これを引きずって藩邸に持ち帰りました。頼房は大いに喜び、脇差を与えたという。またある時、頼房は幼い光圀に、「もし戦場で私が深手を負って倒れたらお前はどうか」と尋ねると、光圀は「父上の体を乗り越えて敵と戦います」と答え、頼房を大変喜ばせています。この父と子は戦国武士の気概を持った似た者同士だったようです。

十五、六歳ころの光圀はいわゆる「かぶき者」で、異様な服装をし、悪友たちと吉原へ通り、庶民の喧嘩に加勢したり、相撲で水戸藩の者が次々と負けると刀を抜いて敵方の力士を追い散らすなど、手のつけられない暴れ

ん坊でした。その光圀を大変身させたのが「伯夷伝(ウヰン)」です。伯夷伝とは中国の歴史書である司馬遷「史記」の中にある項目で、伯夷という兄と叔斉(シクイ)という弟の物語です。「殷の諸侯だった兄弟の父は弟の叔斉に跡を継がせようと考えていました。これを知った伯夷は「自分が家を出れば必然的に弟が跡を取るようになるだろう」と考え弟に話すと、叔斉は猛反対をし「それは天の道に背きます。あくまでも兄さんがそうするなら、私も一緒に家を出ます」といって二人共家を出てしまいました。伯夷と叔斉は仕えていた周王の許で暮らしました。そのうち周王が道に外れた行いをしかけたので、二人はこれを諫めましたが周王はききませんでした。二人は「道に外れた国の穀物を食べることはできない」と山に入り、ワラビなどを食して露命をつないでいたが、やがて餓死したという。18 歳の時にこの話を讀んだ光圀は強い衝撃を受けました。兄である頼重(讃岐高松 12 万石藩主)を差し置いて水戸藩主になったことを心苦しく思っていた光圀は「伯夷伝」に倣い、「水戸藩主を兄の子に返そう」と決意し、兄頼重に頼んで、無理やり頼重の息子を養子に貰い受け、世継ぎとしました。3 代目藩主綱條(ツダ)は兄頼重の子です。頼重は頼重で光圀の子を貰い受け、高松藩 2 代目藩主(頼常)としました。こうして兄弟の血筋は、元々のそれぞれにふさわしいところに収まったのでした。これは口で言うのは簡単ですが、実際には中々できることではありません。さすが黄門さまです。

幹事報告

- 1・ガバナー事務所より
6月のロータリーレート 1\$ = 98円 受領
- 2・熊本グリーンロータリークラブより
ロータリー情報集「最新版」のご案内 受領
- 3・例会変更のお知らせ
旭RCより
6/5(金) 6/7(日) 親睦家族旅行の為
6/26(金) 18:30「黄鶴」最終夜間例会の為 受領
週報受領 館山RC 佐原RC

卓話

「職業奉仕の事例について」

山本 嘉一郎 会員

出席・プログラム委員長の平野さんから創立記念例会に何か話をするよう言われ、何を話そうか迷いましたが、先日、職業奉仕に相応しい出来事を体験しましたので、その事例を紹介してみたいと思います。



その前に今年度職業奉仕部門を担当していますので、職業奉仕について少し触れてみたいと思います。

ロータリーの創立時、最初の目標が「会員の職業上の利益の増進」と「親睦」であったことは皆様も良くご存知の通りです。始めは会員間の助け合い的な性格でしたが、それが次第に職業を通じて社会に奉仕するという対照的な奉仕へと発展し、現在に至っております。この職業奉仕と言う考え方はロータリー独自の発想であり、ロータリーの特徴を現しています。

さて、職業奉仕は「ロータリーの金看板」と言われていますが、その一方で「職業奉仕は難しくて良く解らない」と言う声も聴かれます。その理由について考えてみたいと思います。

職業奉仕は「自分の職業を通じて社会に奉仕すること」と定義されています。この文語を素直に解釈すれば、何となく解るような気がしますが、しかし、この定義は実は抽象的であり、それが解りにくくしている原因の一つだと思います。また、「職業奉仕」と「社会奉仕」との区別がハッキリしていないことも大きな理由だと思います。

それでは何故「金看板」と言われるかと言いますと、ロータリーの奉仕活動は会員個人個人が主体となることが基本となっています。職業奉仕の目標は職業倫理に則って、自分の職業を日々誠実に実践することにありますから、会員が誰でもいつでもどこでもできる奉仕活動であり、それゆえロータリーの金看板と言われております。

次に「職業奉仕」と「社会奉仕」の区別について述べてみたいと思います。「職業」を辞典で引きますと「生計を立てるために日常従事する仕事」となっています。従って適正な報酬を得ることが前提となります。例を上げて説明しますと、お医者さんが患者さんの治療に最善を尽くし報酬を得ることが職業奉仕です。そして職業を活用して地域住民に無報酬で血圧測定や健康診断を行うことは社会奉仕となります。また料理を提供する仕事に携わる人が「良い素材を使って美味しいものを作り適正な価格でお客様に提供し、満足して頂けるよう努めることが職業奉仕です。そして料理人が料理教室を開催し、料理の作り方を無償で教えたりする場合は社会奉仕と言えます。このように職業奉仕と社会奉仕の区別をはっきり認識することによって職業奉仕の解りづらさが少しは解消するものと思います。

それでは私の体験した事例について照会致します。私事で恐縮ですが、長男一家が富山県の上市と言う所に住んでいますので、年に一、二回は訪ねていきます。上市は富山市の隣町で、当クラブの吉田会員のお父さんが上市の御出身とお聴きして更にその土地に親近感を覚えます。今年も2月21日～23日の3日間訪ねていき孫達と遊んできました。

話はそれますが、24年前子供が大学への入学が決まりましたので、3月半ばすぎ下宿を探しに富山に行った時はまだ一面に雪が積もっていましたが、今回は2月なのに雪はまったく無く、近年では街なかで雪が積る事は余り無いそうです。これも地球温暖化の影響ではないかと考えてしまいました。

横道にそれましたが、23日に孫達を学校に送り出した後、帰途のために富山駅から越後湯沢行きの特急はくたかに乗車致しました。富山駅を出発するとすぐに社内販売が回ってきました。いつも富山に行った時には越後加賀の「あんころ」と越中の「月世界」越後の「笹だんご」を土産に買い求めます。その時も「あんころ」と「笹だんご」を購入しました。電車は一時間程度で直江津駅に到着し、そこを発車してすぐに先程の販売員が何か入れた袋を持って近づいてきて、先程は「笹だんご」をお買上げ頂いてありがとうございました。今直江津駅で出来たばかりの「笹だんご」が積み込まれましたので、もし良かったら先程の品物と交換致しますが如何でしょうかとのことでした。少し驚きましたが好意に甘えて交換してもらいました。そこで販売員に交換した商品はどうかと尋ねましたところ、終着駅の越後湯沢駅にある当社の事務所に納めますとの事でした。またこのように交換することは会社の方針ですか、それともあなたの考えですかと尋ねましたところ、会社から出来るだけ新しい商品を提供するよう指示されていますので交換させて頂きましたとのことでした。

昨今、産地の偽装を始め賞味期限や消費期限の改竄等、消費者の信頼を裏切る行為が続発しております。つい先頃も山形の山菜卸し会社が外国から輸入した山菜を地元さんだと偽って販売し、その偽装が発覚して会社が廃業に追い込まれたケースがありました。また、日立の子会社が「省エネ大賞」を受賞したエコ冷蔵庫として売り出した商品が、実は不当表示であったことが発覚し「省エネ大賞」を返上するなど次々に不正行為が明るみに出ています。これは自己の利益のみを追求するために職業倫理を軽視した結果に他なりません。

本来日本人は人を騙す行為を恥としてきましたが、この様な数々の不正行為を平気でやる現象を見るにつけ、かつての日本人の持つ美意識などどこかに吹き飛んでしまったようです。それに比べますと先程紹介した会社の経営姿勢は実に見事であり、我々経営者にとって見習わなくてはならない事だと思います。私は機会ある度にこの話を致しますと皆さん様に感心されます。改めて私達は「四つのテスト」「職業宣言」の教訓を日々の職業に反映させていかなければならないと思います。

創立記念例会



米寿御祝



網中喜一郎会員

片海宣光会員



詩吟

木樽定雄会員



祝賀創立五十周年之文
 緑風鯉機悦東天
 三七重齡創立筵
 奉仕昌盛固結固
 志仁益盛祝周年
 丁未年一月一日
 木樽定雄

大志
 謹啓
 貴会創立五十周年之文
 緑風鯉機悦東天
 三七重齡創立筵
 奉仕昌盛固結固
 志仁益盛祝周年
 丁未年一月一日
 木樽定雄

第7分区ゴルフ大会

平成 21 年 5 月 21 日 (木)



前回の例会(5/26)報告

点 鐘 網中 吉郎 会長

出席報告

会員総数 37 名 出席規定除外数 9 名
 出席者 28 名 出席率 100 %
 5月12日 確定出席率 82.14 %

来訪ロータリアン

青野秀樹君 橋本有司君 井上照夫君
 伊藤浩一君 兒玉英子君 宮内榮君 仲田博史君
 岡根清君 桜井広和君 植田久夫君 (銚子RC)

欠席者 なし

メイクアップ

狩野君 (5/25 千葉科学大学RAC)

スモールコインBOX

累計 ¥ 84,774 -

ニコニコBOX

累計 ¥ 700,100 -

銚子東ロータリー・クラブ

銚子市三軒町19番地の4 銚子商工会館内 TEL0479(23)0750 FAX0479(25)8789

メール c-higashirc@tcs-net.ne.jp URL <http://www.tcs-net.ne.jp/~rc>

例会日時及会場 毎週火曜日 12時30分点鐘 銚子商工会館5階大会議室

会長 網中吉郎 副会長 狩野 勉 幹事 石井哲也

R . I 第2790地区

クラブ広報・会報委員会 川津光雄・田杭啓信・山口廣雄・大木 忠・杉浦 武
表紙題字 網中喜一郎初代会長

ほととぎす 銚子は国の とっばずれ

古帳庵

江戸小網町の豪商鈴木金兵衛夫婦(古帳庵 古帳女)が銚子に遊んだときに詠んだもので、この碑は圓福(円福)寺に現存する。